

■コラム3 南相馬の文化人

埴谷雄高は戦後文学の最高峰とされる『死霊』の作者です。本名を般若豊といい、先祖は14世紀に相馬氏から下総から移住したときに従った家臣団の氏族です。先祖の墓は小高に残存し、野馬追見物に来た際などに訪れています。

島尾敏雄は夫婦と家族の本質にせまった『死の棘』の作者として知られています。横浜生まれですが、両親が小高の出身であり、幼少期には小高を「いなか」と呼び、よく小高を訪れました。

憲法学者である鈴木安蔵は、日本国憲法の「間接的起草者」とされています。大正時代に建てられた生家は現存しており、ガラスを多用した建具類がしつらえてあります。

夏目漱石研究家として著名な荒正人は鹿島区出身です。埴谷雄高らと「近代文学」を創刊するなど近代文学研究者として評価されています。

文学以外の著名人としては、アマチュア天文家羽根田利夫があげられます。昭和53年(1978)、原町区馬場につくった天文台で愛犬コロを伴って観測中、短周期彗星を発見し、この彗星は「羽根田カンポス彗星」と名付け

られました。そのほか、実業家として活躍し、東北地方の農業や産業のことについて『将来之東北』を著した半谷清壽、小高教会の牧師として小高に住み、農業と布教に努めた杉山元治郎などの文化人がいます。

埴谷・島尾記念文学資料館

埴谷雄高・島尾敏雄を中心として、南相馬の文化人を紹介しています。

問合せ

住所：〒979-2124
福島県南相馬市小高区
本町二丁目89番地-1
(浮舟文化会館)
電話：0244-66-1011

開館時間

9時から17時まで

休館日

毎週月曜日
12月29日から翌年1月3日まで

